

五島列島における瀬戸を介した久賀島及び奈留島の集落景観

No.42-04

所在地：長崎県五島市
面積：12,846.0ha

選定年月日：平成23年9月21日、令和4年3月15日追加・名称変更
選定基準：二(一)(三)(八))

(1) 概要

五島列島における瀬戸を介した久賀島及び奈留島の集落景観は、五島列島南西部に位置する久賀島及び奈留島の大串(おおくし)集落・江上(えがみ)集落、その周辺海域を範囲とします。

北に湾口を開く馬蹄形をした久賀島においては、島の外周では急傾斜に段々畑を築き、内湾側では河川が発達した緩傾斜に水田を広げます。近世初期には存在した6集落は、冬の北西風を避けられる山を背負う、比較的大きな入り江に立地します。その周縁には、近世後期に潜伏キリシタンを多く含む大村藩からの移住者により開拓が行われたとされる集落が点在します。これらは、五島列島南西部の農業に比重を置く暮らしと歴史を良く伝えるとともに、島内には広い自然林や古樹を含め、ヤブツバキが多く見られ、五島列島の椿林の維持管理や椿実採取の慣習を伝えます。

久賀島の北東に位置する奈留島の大串集落及び江上集落は、久賀島の外海側の集落と共通する特徴を有するとともに、久賀島と瀬戸を渡っての日常的な繋がりがあり、その名残を沿岸の集落に留めています。

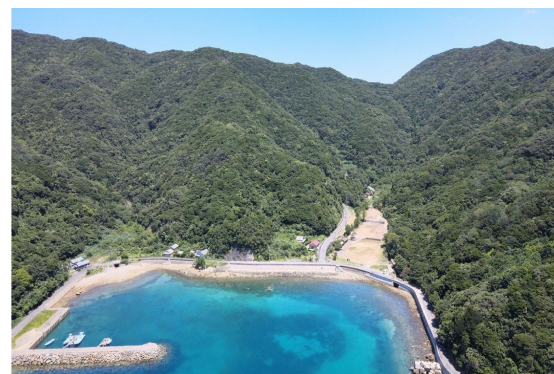
当該文化的景観は、瀬戸越しに眺める海と島の景観、気候風土に即した土地利用を見せる集落景観、ヤブツバキ等の利用が特徴をつくる山林景観等に、五島列島南西部における歴史的、文化的な特徴が見出され貴重です。



久賀島からの奈留島への眺め



管理されたツバキ林

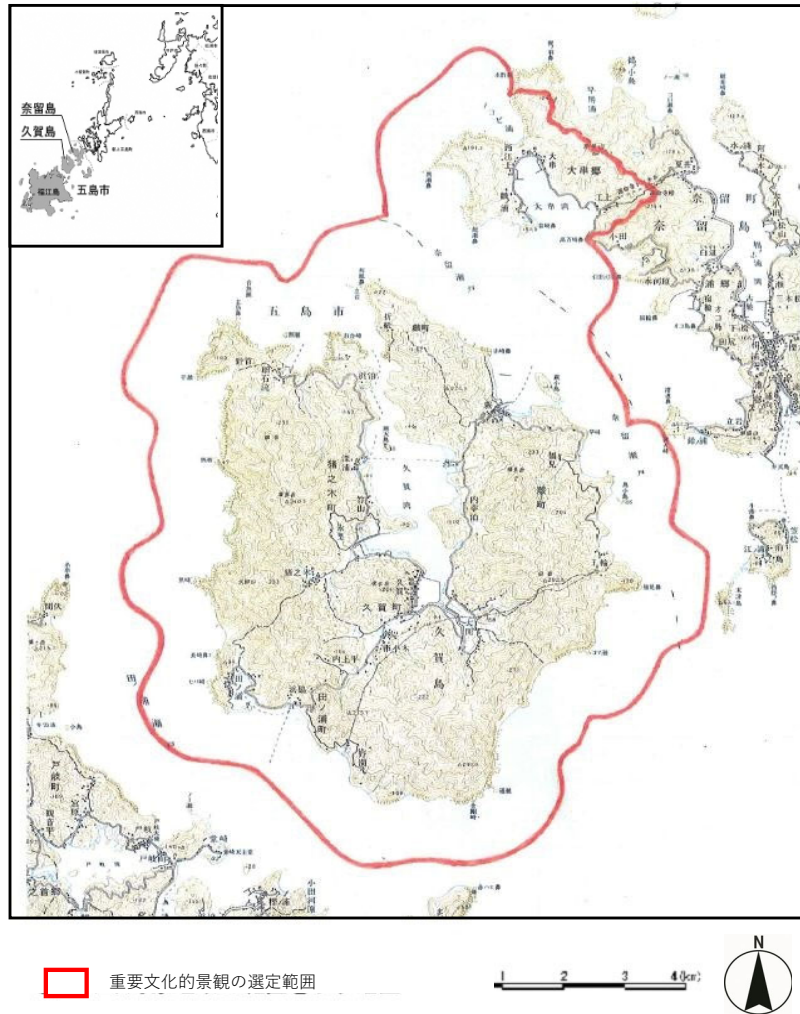


奈留島江上集落の谷泊地形



久賀島からも礼拝に訪れた奈留島の江上天主堂

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：52件
- 国指定等文化財：旧五輪教会堂(重要有形文化財（建造物））、江上天主堂(重要有形文化財（建造物）)

（３）選定による効果

久賀島、奈留島ともに少子高齢化、過疎化が急速に進むなか、重要文化的景観の選定に加え「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界文化遺産への登録により多くの方に注目されることとなり、島を訪れる観光客も増えました。世界文化遺産と共用のガイドンス施設として、市が寄贈を受けた旧家の邸宅を改修・整備した「久賀島観光交流拠点センター」は、休憩や食事、交流の場として活用されています。また、景観に配慮した公共工事などを実施していく中で、地域や景観に対する住民や行政の意識も高まりました。



久賀島観光交流拠点センター



景観に配慮した災害復旧工事

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 五島市久賀島の文化的景観保存計画（平成23年3月、五島市）
- 「五島市久賀島の文化的景観」整備活用計画（平成28年3月、五島市）
- 五島市文化的景観調査報告書奈留島編（令和2年3月、五島市）
- 長崎県五島市文化的景観保存活用計画～五島列島における瀬戸を介した久賀島及び奈留島の集落景観～（令和3年8月、五島市）
- ホームページ <https://www.city.goto.nagasaki.jp/index.html>

（5）活用事例

事例42-04 ①

久賀島と奈留島の交流の復活と価値の周知

●行政による取り組み

市では、奈留島の大串江上地区が選定されたことを記念したシンポジウムを、令和6年1月に奈留島で開催しました。定期船の廃止や自動車などの普及などにより、かつては盛んであった両島の交流が薄れつつあるなか、久賀島、福江島からも参加者を集め、両島の繋がりを改めて認識する機会となりました。

久賀島も奈留島も状況に差異はあるものの、ともに過疎高齢化が進み、獣害被害が深刻であり、当日はそれぞれの地区の代表者が、地域の保全活用や存続について語り合う時間を設け、参加者と課題を共有しました。

また、地元のガイドの案内のもと、大串江上地区を見学し、かつてのように船に乗って奈留瀬戸を通過して久賀島へ行ってみるというワークショップを実施しました。久賀島からの参加者にも大串江上地区を訪れるのは初めてという方がいたこと、久賀島奈留島以外からの参加者からも関心を示していたことなどから、今後も両島の交流を含めたイベントの実施に取り組めます。



シンポジウム会場の様子。
小中学生による重要文化的景観の絵画・写真の展示も



ワークショップで大串集落の見学。
熱帯、亜熱帯の海岸に多く見られるビーチロックも



ワークショップでは、江上集落の江上天主堂などを見学



奈留島 大串集落から奈留瀬戸を経て久賀島へ渡る

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり
・

（５）活用事例

事例42-04 ②

久賀島での地域団体などによる特産品販売や景観整備活動

●住民や団体等による取り組み

久賀島では、重要文化的景観の価値を守るために、久賀島の地域資源を特産品や観光資源として活用し、将来的に島民が主体となって“暮らせるまちづくり”を進めていくための基盤を作ることとを目的として、地域の有志から構成する「久賀島ファーム」が設立され、地域特産品の開発・販売などを行い、生業の維持・継承に寄与しています。

また、まちづくり協議会や公民館、町内会をはじめとした団体などによって、地域づくりや地域の保全活動が実施されています。特に選定以前から島民で手作りしていた折紙展望台（手づくり故郷賞受賞）は、奈留瀬戸や周囲を一望できる名所となっています。地域にとっても大切な場所であり、年3回程、地域の子どもたちも一緒に除草作業を行っています。また、島内各地での除草作業、ダンチクの伐採、漂着ゴミのパトロールなどにより島内の景観が美しく保たれています。

まちづくり協議会では、重要文化的景観の視点に立った見どころと解説、推奨ルートを掲載した観光マップの作成、更新を行うなど情報発信にも努めています。

✓ 手づくり郷土賞（国土交通大臣表彰）（平成18年度）

✓ 九州まちづくり賞（日本都市計画学会九州支部）（平成27年度）



「久賀島ファーム」の米と椿油



大椿周辺の除草作業



折紙展望台での除草作業



まちづくり協議会発行の観光マップ



① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す

⑤ 財源の運用

⑥ 人づくり